

2. 浸水リスクの想定

本市では、近年大きな浸水被害が発生していないため、本計画に基づき計画的に事前防災の考え方に基づいた整備ができるよう、浸水リスクを想定する必要があります。

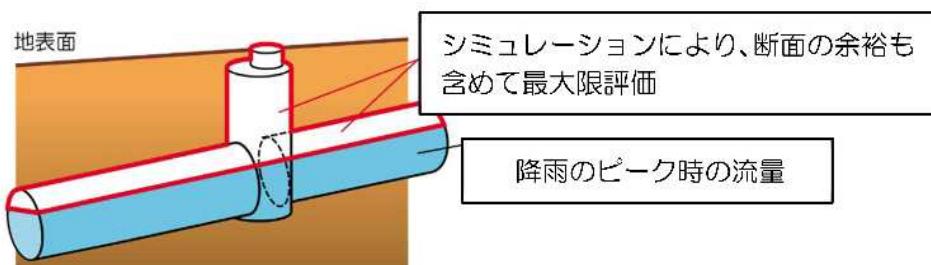
浸水リスクを想定するに当たっては、国立市内の管路施設の情報と地表面の標高データを用いて流出解析モデルを作成し、内水氾濫シミュレーションを行いました。

シミュレーションにおいて対象とする降雨は、気候変動により激甚化・頻発化する豪雨に対応する必要があるため、「東京都豪雨対策基本方針」における気候変動による気温上昇に伴い、降雨量が1.1倍に増加する可能性を踏まえた、下水道の整備による目標降雨である65mm/hを対象降雨として実施しました。

シミュレーションによる最大浸水深の解析結果を図表2-2に示します。

現状の本市の公共下水道は50mm/h降雨を計画降雨として整備を進めています。将来的な降雨量の増加を想定した65mm/h降雨を対象降雨として実施したシミュレーションにおいては、図表2-1のとおり既設管きょが断面の余裕も含めて、その能力を十分に活用できるため、浸水が想定される範囲は限定的となります。なお、平成6(1994)年に下水道普及率が100%を達成して以降、本市においてはこれまで浸水被害は発生していません。

図表2-1 シミュレーションにおける既設管きょの考え方



【出典：東京都豪雨対策基本方針（改定）（令和5(2023)年12月）P54】

また、シミュレーションにおける条件として、近隣各市で発生した内水が地表面から本市に流入がないこととして実施しました。これは、本計画の段階的対策計画において具体的な対策方針を決定していくうえでは、本市の公共下水道等で行うことができる対策を位置づけていくこととなるため、このような条件でシミュレーションを実施しました。

図表 2-2 対象降雨 65 mm/h におけるシミュレーション結果

